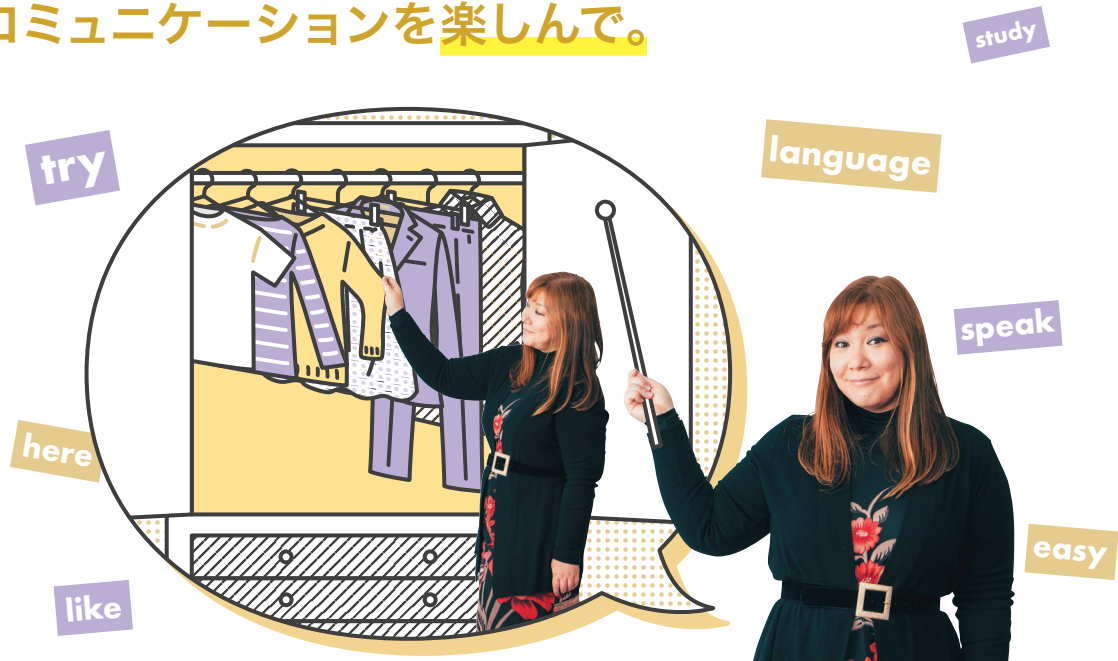


Q 今まで学んできた英語。 自由に話せるようになりたいです。

間違えてもいい!という気持ちで
コミュニケーションを楽しんで。



完璧じゃなくても大丈夫! とにかく話してみる。

英語を学んだ学生の多くは、英語を話すときに頭の中で「完璧な文章」を作ってから話そうとします。しかし、母国語の日本語で話すときはどうでしょうか?言葉の順番を間違えることもあるし、相手に伝わっていないと感じて何度も言い直すこともあるでしょう。ですから、英語で話すときも「間違えてもいい」という気持ちが大切です。単語1つでも、クローゼットから服を選ぶように楽しみながらチョイスして、使ってみてください。すると、相手の反応などから「違う言い方がいいかな」「この言葉なら伝わるな」など、たくさんの発見があります。こうした気づきが学びになり、英語コミュニケーションの上達の鍵になります。海外ドラマや映画を観ながら、役者の真似をするのも良い勉強法です。

役づくりを通じて、 英語コミュニケーションを磨く。

私の研究分野である「演劇教育法」では、歴史上や物語の人物に扮して、英語で演じたり、日記を書いたりします。役になりきるためにその人物について調べる過程で「なぜこんな行動を取ったのだろう」「どんな気持ちだったんだろう」と行動の裏にある感情にもフォーカスしていきます。こうした学びで、歴史上の出来事や現代の社会問題をより深く理解し、さらにそれを伝えるためのコミュニケーション力や表現力を身につけていきます。語学力とは単語や文法を覚えることだけではなく、自分が持っている知識を工夫して使う能力でもあります。学生たちには「言葉をクリエイティブに使えるようになれば、人生も豊かになるよ」と学びの楽しさを伝えています。



Aya Murray 先生

アヤ マレー

子どもの頃から役者として活動していました。演出家やプロデューサーとしてさまざまな作品づくりに関わる経験が自分の成長に大きく影響しています。授業ではどんどん間違えてOK!間違いから学んでいきましょう。

コロナ禍になって
始めたもの・
ハマったもの



保護犬用のセーターを
編みました。

コロナ禍になって、誰かのために何かできないかと始めたのが、保護犬へのセーターづくりです。知人が徳島で保護犬団体のボランティアをしており、その人を通して定期的にセーターを送っています。